

国民の世論と運動で、「社会保障・税一体改革」をやめさせ、社会保障拡充への転換を！

ほっかいどうの社会保障

2021年2月28日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

いのちとくらしを守れ！

オンラインで結び総決起集会に250人参加 パレードも

2月20日(土)、「第10回いのちとくらしを守れ！北海道決起集会」が、札幌市教育文化会館ホールで行われました。新型コロナウイルス感染症が収束しない中、感染対策を行い、全道をオンラインで結んで開催され、会場に約150人と合わせて約250人が参加しました。主催は、消費税廃止各界連・高齢期運動連絡会・道社保協・介護に笑顔を！道連絡会で作る「集会実行委員会」。

集会は、毎年、国民いじめの予算案や悪法に対して、地域の実態を踏まえ改善させる、社会を変えたりくみを交流し合い、

共同してアピールすることを目的に行っています。今年は、この間の新自由主義政策による格差と貧困の広がりに加え、新型コロナ災害により、多くの道民のくらしや業者の営業が深刻になっている中行われました。



記念講演は当事者が語る日本学術会議会員『任命拒否』問題 講師は松宮孝明教授

記念講演は、昨年、日本学術会議会員の任命を拒否された当事者の一人である立命館大学法務研究科の松宮孝明教授が「当事者が語る日本学術会議会員『任命拒否』問題 一戦争の反省に立つことでこそ学術会議の思想的基盤」と題して、京都からオンラインで話しました。



松宮教授は、後手後手の新型コロナ対応を批判し、「専門家を軽視し、一部の利益を優先するという意味で日本学術会議会員の任命拒否と同根」と指摘。日本学術会議法や日本国憲法を説明、任命拒否は違法であると強調しました。「軍事研究に参加すれば守秘義務などによって研究成果の発表を自由にできなくなり、逆に学問・研究の自由を奪うことになる」と指摘。「科学者が軍事研究をしてきたことに対する反省からできた日本学術会議の理念を考えれば、答えは明らか」とのべました。また、公務員の選定罷免権(憲法15条)などを根拠に、首相の独裁を容認する議論がまかり通っていることに懸念を示し、国務を総理すること。間違った解釈を放置することは法治国家の危機。専門家として指摘する責任がある」と語りました。

各分野から、深刻な実態やたたかいについてリレートーク

続いて、各分野の代表が登場し、深刻な実態や改善の取り組みについて、リレートークしました。

北海道における学生・若者の状況を北海道大学研究生の館野亜実さん(右参照)、業者を代表し北商連副会長の尾谷幸子さん、年金者組合道本部女性部事務局長の若狭泰子さん、介護分野を代表して勤医協福祉会手稲在宅センター長小林晃さん、道生連事務局次長の石橋妙美さんが発言。



3月29日に札幌地裁判決を予定している生活保護費引き下げ中止を求める新・人間裁判

原告団が公正な裁判を求める署名への協力を訴えました。

館野さんが学生・青年への食糧支援を報告。アンケートに寄せられた「バイトができなくなり親からの仕送りもないので2~3日メシ抜きも普通だった」「お金もない。食べ物はうれしいが本当はお金が欲しい」などの声を紹介。「自己責任が刷り込まれている人も、対話すれば困難の原因が今の社会にあると分かったもらえる」と語りました。

「いのちとくらしを守れ！国民本位の新しい社会を！」 集会アピールとデモパレード

集会の最後に、集会アピール「いのちとくらしを守れ！国民本位の新しい社会を！」を確認、「いのちを守れ」「くらしを守れ」のメッセージボードアピールをしました。集会後には、市内をデモパレードしました。集会には、日本共産党の島山和也さんが連帯の挨拶をして、立憲民主党、社会民主党からメッセージが寄せられました。